

平成 30 年度 第 2 回生駒市環境モデル都市推進協議会

【議事要旨】

日時：平成 31 年 2 月 5 日(火) 15:00～16:30

場所：たけまるホール 研修室 3

1. 配布資料

- ・ 資料 1：第 2 次生駒市環境モデル都市アクションプラン（案）
- ・ 資料 2：第 2 次生駒市環境モデル都市アクションプラン（案）の概要等について

2. 受領資料

- ・ なし

3. 協議会出席者

区分	所属	氏名
会長	大阪大学大学院 工学研究科 環境・エネルギー工学専攻 教授	下田 吉之
副会長	生駒市環境基本計画推進会議 代表	矢田 千鶴子
委員	奈良先端科学技術大学院大学 名誉教授	横田 明徳
委員	一般社団法人市民エネルギー生駒 代表理事	楠 正志
委員	生駒商工会議所 専務理事	大原 暁
委員	生駒市農業振興協議会 会長	井上 良作
委員	関西電力株式会社 奈良支社コミュニケーショングループリーダー	西田 隆一
委員	大阪ガス株式会社 エネルギー事業部 都市エネルギー第 2 営業部 第 3 チーム マネジャー	大西 裕之
委員	近鉄不動産株式会社 経営企画室 部長	津石 哲志
委員	株式会社南都銀行 生駒支店 支店長	竹本 和靖
事務局	生駒市地域活力創生部長 生駒市地域活力創生部次長 生駒市環境モデル都市推進課課長補佐 生駒市環境モデル都市推進課主幹 生駒市環境モデル都市推進課係員 生駒市環境モデル都市推進課係員	石畑 欽一 川島 健司 大窪 奈都子 天野 卓 烏頭尾 悠治 藤村 佳生

4. 議事録

1. 開会	
2. 会長挨拶	
3. 案件	
(1) 第2次生駒市環境モデル都市アクションプラン（素案）	
事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> 資料1、資料2、について説明。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> AIを用いた交通支援などいくつか事業があるが、これらを誰が取り組むのか。いこま市民パワーによるコミュニティサービスとして登下校見守りサービスが実施されたが、これからの生駒市の市民サービスはいこま市民パワーに集約していくのか。それとも他の主体も参画しながら進めていくのか？
事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> いこま市民パワー設立の目的は単に電気を売り買いするだけでなく、地域の生活を総合的に支えるというもの。今後は様々な事業と統合していきたいと考えているが、様々な方が主体となり活躍して頂ける方が望ましい。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> いこま市民パワーの取組として EMS の導入支援などは結び付けられればいいと思う。
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> これらの事業は環境モデル都市推進課が推進母体となって取り組むのか？ これだけ多くの事業をどのように振り分けて取り組むのかといった、事業そのものの推進体制がはっきりしないといけない。推進母体の下に、自治会や様々な市民団体などの実働部隊が別にあれば良くなると思うが、そういった点の準備はどうなっているのか？
事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> 全ての取組を環境モデル都市推進課だけで処理することはできない。横串をどのように刺していくかが課題。庁内では行政経営会議など部長級の会議で総括したうえで、関係部署にも大きな役割を果たしてもらう必要がある。 環境モデル都市推進課だけで動くのではなく、うまく連携しながら進めていくことが今後必要になると考える。 各所属それぞれの通常業務のなかにどれだけ環境要素を当てはめられるかは、環境モデル都市推進課によるコントロールが効くところだと思うので、うまく進めていけると思う。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> 最近どこの役所でも、SDGs 以来横串という言葉が出てきているが、刺すといってもどうやって刺すのか。海外などでは、上位にサステナビリティマネージャーがいて、こういう話はそこで考え、それから担当部局に落としている。それこそ横串を通すのは上位職になるのかと。やはり、それぐらいやらないといけない。 推進体制について、市長によるリーダーシップが前面に押し出されるとさらに良くなるかもしれない。 新規事業の一つ「清掃センターの施設更新」は確実に取り組むものなのか？

事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合計画や環境基本計画などの上位計画でも位置づけている。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「アンコーナ市との取組」はすでに動いているので具体化している。 ・ あとは、ここにいるステークホルダーの方が「これに私も乗る」と手を挙げてくれれば新しい事業でも進めやすいのではないか。 ・ いこま市民パワーは事業者による出資という資金面の支えがあったが、一つ一つの取組において、恩恵を受ける方がどれだけ支えるのが大事なのではないだろうか。 ・ バイオマスは市で取り組むものなのか？
事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての項目に共通するが、単費だけで出来るものは限られている。事業者から声をかけてくれたり、それを通じて国の制度をうまく使ったり、市民の方に協力をいただいたり、という中から進めていく。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市が単独で打ち出すものと、いこま市民パワーにおける大阪ガスのように技術や資本を持った事業者がパートナーとして参画していくという2つのやり方があるほうがいい。 ・ AI を用いた交通支援は面白いと思う。これは奈良交通をイメージしているのか？
事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> ・ そこまで具体化はしていない。 ・ 具体化の程度にばらつきがあるが、この AI の取組などはドコモのコンテンツを上手く使えないかと提案を頂いているもので、色々な事業者に参画してもらわないと実現できないと思っている。 ・ 大手の事業者から地元の交通事業者まで広く巻き込んだ話なので調整が必要になると思っている。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクションプランなので、ある程度アクション出来なければならない。 ・ ICT を活用したコミュニティサービスの提供というのは、いこま市民パワーとドコモがやっている事業の延長のようなイメージなのか？ ・ 高齢者見守りサービスは高齢者に関係している市内団体のニーズをくみ上げている。介護関係などの関連団体と繋いでおいた方が良い。
事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> ・ いこま市民パワーの仕組みのなかで、市民から困っていること、手伝ってほしいことなどの意見を言ってもらう場を作り、意見を集約してからサービスに繋げていきたい。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際にビジネスに取り組んでいる事業者が、個々の取組によって生駒市の産業が活性化するというように動いていければ良くなると思う。そのためにも、プレーヤーとなる主体が出てこないに進まない。 ・ 地産地消サイクルについても、前回話に挙げたように、都市における農と住の共生のといった生駒特有の課題があつて、そういうのを真正面から取り上げてほしいと思ったのだがそういう話ではないのか？
事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物由来のバイオマスや剪定枝等をどのように使うのかということは、バイ

	<p>オマース資源有効活用推進の欄で書かせて頂いているが、活用方法は堆肥化、電気、熱、など多々あると思うので様々な活用方法を探っていければ。</p>
矢田副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画としてはまとまっているように思うが、具体的な施策としてすぐ出来る取組と、すぐには出来ない取組が同列にあり、区別が上手くなされていない。市民にとって分かりづらいのではないだろうか。 ・ 様々な施策に高齢者という言葉が出ているが、こういう取組によって恩恵を受けるのは若い世代。暮らしの向上のために全ての世代に向けて取り組むのであれば、そういったものを活用できない世代をどのようにサポートするのかを考えなければならない。AI を用いた交通支援などは便利だと思う反面、本当に必要な世代にとって利用しやすいものなのだろうか。そういう方にとって使いやすいサポート手段も併せて考えていただきたい。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民側の参加者からは、各々のニーズと合致しているのか、ビジネス側の方には、地域経済を活性化させるようなビジネスとして、あるいは、これらのサービスがビジネスとして成り立つのかといった観点から、一人ずつ意見を頂きたい。
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体を俯瞰的にみると、関連する取組同士をいくつかのグループに分類することができると思う。例えば「バイオマス資源の活用」、「環境啓発に関する人材発掘」、「学校や地域への環境出前講座」、「ICT を活用した農業の効率化」これらを連結して考えることができる。 ・ それと、お金をどこから持ってくるかという視点が必要。市が音頭を取り、省庁に掛け合い、様々な関係者がまとものお金を取りに行くのも一つの手段。 ・ どの自治体も横串を指すのは難しい。プランは出来ても、具体的に取り組むとなると厳しい。全体のスキームを作って、人をどのように配置して、どこからお金を持ってきて、どこで実際に動かすのかということを考えないといけない。
事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例は少ないが、事業者や大学等と連携して国のモデル事業を取りに行っている事例はある。 ・ 一つの狙いでは国の求めているものにはまらない。例えば、教育とバイオマスなどを併せた形で入口と出口を上手く設定する。その絵の描き方が本当に大事。知見をいただきたいのが企業や大学で、そういった所と共同で申請することがこの事業を進めていくうえでの肝になる。
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長浜バイオ大学が、大学、高校生、市民と連携して環境・食糧問題を考えるプロジェクトを設立した。科学技術振興機構 (JST) にもいくつか提案をして、そのうちの一つの事業が動いた。そういったやり方も一つ。 ・ 教育も大切。家庭で話題に上がるという点で子供は重要なアクターになる。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主な個別取組は23個あるが、それぞれの取組もバラバラでは難しくとも、いくつかまとめて取り組むと上手くいくこともある。

楠委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別取組を束ねながら取り組めば、全て上手くいくこともある。 ・ こういった取組を進めるには、核となる組織・人が必要。一番良いのは市長がトップダウンで決める形。 ・ 行政・市民・事業者が一体となることで街が出来上がる。企業にとってはいかに収益を上げるかという視点が最も重要だが、事業者としてビジネスをするなかで収益をあげられて、市に貢献できて、市民のためにもなる形が最も良い。 ・ 市民側としては、自分たちが暮らす街への恩返しとして、市民自らも無償で自身たちのノウハウやスキルを活用してお手伝いをするのが街を良くする。課題としては、若い人まで巻き込んで出来るかどうか。そこは市民側の課題。参加を広めていくためにも接点を作っていくことがポイント。そのためにも行政がスタートを噛み合わせていく必要がある。自治体 3.0 を目指すのであれば、行政の職員が減っていく中でもそれに成り変わるものを市民や事業者で補わなければまちづくりは出来ないと感じている。 ・ 行政部門で全て取り組むのは厳しい。部長に責任を持たせたいうえで、自分たちが直接取り組まなくても、事業者等に割り振るなどして成果を求める体制が必要。ほかにも、所管業務の出来だけでなく、環境面での成果も評価に組み込むなど、給与面でのインセンティブをつけ、査定を市長がすれば、より真剣に取り組むのではないか。 ・ 生駒市は住宅都市初の環境モデル都市として認可された。その時の勢いを復活させるインパクトのある取り組みが必要。 ・ 市民にもプレーヤーになってもらうには、行政自ら頑張る姿勢が伝わる青写真やロードマップを示すことが必要。
事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> ・ まず行政が率先するには、強力な権限を持った部門が必要。それを環境モデル都市推進課が引っ張れるように力をつけないといけない。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ シニアの方の理想像はいろいろある。課題は若い人にどう繋ぐか。子供の見守りサービスは若い人が受益者。今はいこま市民パワーと若い市民の関係だがその中に高齢者が食い込むと良い繋がりになるのではないか。生駒は坂が多く、お年寄りもそうだが、妊婦の方のサービスも必要で、そういったところと交通支援が引っ付かないだろうか。市役所・シニア・ヤングの関係にビジネスや技術が組み込む形が重要で、その題材はアクションプランに掲げるどの取組でも良い。いこま市民パワーにリソース集めてそこで全部サービスをやるもよし、いこま市民パワーの流れを汲んで第2の事業体で作るのもよし。
大原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ いこま市民パワーがアクションプランにおける大きな位置づけを担っていると実感した。 ・ 環境基本計画については議会報告はあるのか。
事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境基本計画は議会に報告させてもらって、パブリックコメントも終わり、最終3月議会で策定の報告を行う。
大原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境基本計画はほとんど固まっている状態か？

事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> ・ (案) が取れる状態に近い所まで来ている。
大原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンパクトシティの取組がコンパクトシティの図と連動していない。9ページの図はスペースの問題で省略しているということなのか。また、環境先進ゾーンも前回から変化していない。
事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンパクトシティに関しては象徴的に生駒駅・東生駒駅を書いている。環境先進ゾーンも同様に、特に進んでいる地域を書いている。
大原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境政策課から環境モデル都市推進課に変えるなど、組織体制の面では力を入れているのではないかと思っている。そういった意識が組織内でどこまで浸透しているのだろうか。
楠委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ いこま市民パワーは生駒市の行政施策として取り組んでいる。大阪ガスとしては生駒市を舞台に、まちづくりのモニタリングの一環として取り組んでいると考えている。日本を代表するまちづくりに取り組んでいくのだから多少の利益は度外視して、人・物・金を投入することを我々としては期待している。採算ベースでは厳しいと思うが、行政・市民・事業者が一体となって取り組むモデルを生駒市が創るのだという考えを打ち出してもらい、大阪ガスとしては自治体と連携してこのようなまちづくりに取り組んだという結果が残ればいいのではないだろうか。
大西委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ エネルギー会社なので、エネルギーの面で協力できれば。
井上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食センターで食品残渣の堆肥化をしている。それを肥料にして立派な作物が出来ていた。しかし作れる堆肥の量は少ない。高齢化により農業者の人手不足が近い将来に起こる。最近では、退職された方が市民農園などを借りて耕作を行っているが、そういう方は時間も余っている。我々は草抜きなどにはあまり時間をかけられないが、市民農園の方はとても綺麗にされている。堆肥のことも行政に頼りっぱなしではなく、時間が余っている人を集めて自分たちで堆肥を作れば、需要もあるし売れる。場所と材料となる廃棄物さえあれば取り組めるので実現可能だと思う。自分たちで取り組まねばと思う。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の話は生駒市と市民団体の連携で実現可能か？
事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例えば、来年度からではあるが竹林の整備を考えている。竹は非常に強く、自然林を駆逐してしまう。それを整備するために竹を処理し、処理した竹をチップにする。このように、堆肥を作るための材料は色々なところから出てくるのかもしれない。それらを有効活用するためには、環境モデル都市推進課だけでなく、農林課などとの連携も必要だと思う。 ・ 所管課でも、自分たちの仕事も環境へどれだけの影響があるのかということを感じれば、それ自体が横向きに刺す新たな串になると思う。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別に挙げている取組でも、中には重ねて取り組めるものもある。そういう重ねて考えられる取組はないか。

事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画として取組を重ねて見せるということは難しいが、実行段階では担当課所管課をしっかりと分けて取り組む、 ・ そして環境をテーマに横串を刺すという体制が現実的には取り組みやすい。
竹本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者の面から述べると、リノベーション、太陽光発電、燃料電池などいわゆる物の導入に関しては、まさしく我々の本業なので、そこでの資金協力は能動的にしていきたい。 ・ 6次産業化はまさしく創業支援にあたり、南都銀行も積極的に取り組んでいるところなので、そういった面では積極的に参加させてもらえる事業は少なからずあるのかなと。 ・ アクションプラン内には共通する事項がいくつもある。例えばいこま市民パワーの取組では、現在民間事業所向けに電力の供給を行っている段階で、並行して供給先の発掘と需要先の開拓を行っている。ここには南都銀行のマッチングサービスも利用している。それが収益を生むことで、次のステップとして見守りサービスや、様々なICTを活用した展開ができる。このように時間軸があり、そういったものをうまく合せていけばもう少しコンパクトにでき、かつ将来的な事も含めて見やすくなるのかと。
津石委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竹本委員と同じ印象を持った。タイムスケジュールがあった方が良い。1年目に何を、2年目以降は何をするかということが見ればもっとよくなる。 ・ それと、個々の取組には、担当課などの部署名は書いた方が良くと思う。そのなかで、誰がいつまでに何をどうするのかを明文化した方が良いのではないかと。市役所がアクションを起こすうえではそういったことが必要。 ・ 中古住宅のリフォーム・リノベーションの取組が掲げられているが、他の自治体とこういった取り組みをさせてもらっているなかで、全国的に空き家問題というのは絶対に避けて通れないと感じる。空き家が今後凄く速く増加していくので何とかしないといけない。 ・ さらに空き家問題は相続問題と絡んでいる。所有者不明の空き家がますます増える。その視点からの切り口を考えないと、今後加速度的に増えていく。現行の建築基準法では立て替えすらできない空き家も多々ある。そういったものへの対応策を考える必要がある。解体費用を出す方法もあるが、固定資産税の面では、現状古家のままで持っていて住宅扱いなので、税の設定などの仕組みも併せて考える方法がある。親からの相続によって所有者が2人以上になると意思決定ができない。税金が増えるのは嫌なので古家のままになる。 ・ 廃屋がどんどん増えていくと景観が悪くなり、街全体の価値が下がる。そうすると結局損するのは生駒市。廃屋があると周辺の住宅も売れにくくなる。全国でもそういう問題が出てきているので、環境モデル都市として、全国のモデルを目指す以上、考えるべきではないだろうか。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ そういうことを表に出せば、生駒市らしさやユニークさがある面白と思う。

大西委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクションプランに掲げられる取組のなかにも市が自ら取り組むことと、民間に取り組んでもらうことの2つがある。市が取り組むことも、計画などを考える方と実際に取り組む方は別の部署ということもある。計画を作るときに取り組む意思があるのかも大事なので、計画段階から他の部署を巻き込んで一緒に考える必要がある。 ・ 災害に強いまちづくりの取組内容があまり災害と関係ないように感じた。 ・ 民間に促す取組について、行政には「補助、規制」の2つの方法があると思うが、規制だと条例を定めるといった手続きもあり手間がかかるし、事業者としても補助ありがたい。我々も関連ビジネスとして出来ることであれば協力したいと考えている。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ BCPの話も、災害に強いまちづくりと燃料電池、コージェネレーションの導入支援のところで繋がると出てくる。逆に言うと、このようにいくつかを繋げていくと施策になる。
西田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ いこま市民パワーを基軸にしていこうということで、私どもとしてはなかなかお手伝いできることは少ないかという感はあるが、国の省エネ等の予算については、どのようなアプローチが採用されるのかといったことは、他の自治体との連携による事例もあるので手伝えると思っている。 ・ いこま市民パワーの今後の活動として、電気の小売りだけではないというお話があったが、いこま市民パワーはそもそも生駒市が環境モデル都市として環境分野で取組を進めていくなかで設立された電力会社である。いこま市民パワーで作っている電気はどれだけ環境に優しいのかを考えた時に再エネ率がまだ低いのではないか。市民も自分たちが購入している電気が環境に優しいものかということに気にするのではないか。 ・ 今後5年間取り組む中で、目標を持っておくことも必要。災害に強い街づくりの中に、バイオマス資源の有効活用の推進が入っているのは伝わりづらいと思うので、地産地消に組み込んだらどうか。災害に強い街づくりでは、蓄電池の有効活用やV2Hなどが繋がるのではないか。
事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害に強いまちづくりに組み込んでいるのは、地産の電気を増やすということで考えている。おっしゃるようにちょっと整理した方がいいと思う。
矢田副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ もう少し整理が必要だと感じた。行政が関わる、事業者が関わることも大切だが、市民がどう関わるかということも見せる必要がある。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクションプランは決定するのはいつか？
事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度中だが、内部でも今後調整を行ったり、今日頂いた意見を活かして整理をしたいと考えている。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民のニーズやリソースと上手くビジネスが繋がって、市役所がモデルを作っただけでは動かし必要がある。アクションプランである以上、何もアクション出来なかったら意味が無いので、まず1、2年の間に実現できるものが無いといけ無い。 ・ 計画をどのように修正していくのか。そのあたりの見通しはどうなっているの

	か？
事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> 第3次環境基本計画の策定と併せる形になると思うが、最後庁内でもう少し詰める。その流れで何らかの形でもう一度推進協議会にもフィードバックをしたいと考えている。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> この会議のなかでも、意見やニーズ、ポテンシャルを感じるが、それら一つ一つを繋ぎ合わせる必要がある。いこま市民パワーで繋ぐという方法もあるし、別の核を作って実施することもできる、他にも事業者にも協力してもらうことも可能。そういったことも含めて見えてくるようなになればと思う。 その他発言はないか。
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> 滋賀県にバイオ産業推進機構というバイオテクノロジーの推進機構がある。こういったものの多くは大企業が出資して設立するものだが、ここは県が出資している、知事によるトップダウンの組織。 新しいプランを作って動かしていきましょうということを提案してそれを上に上げていくステップが必要。そういうシステムが無ければいつまでも動かない。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> 一步踏み出す何かを期待したいと思います。
4. 事務連絡	
事務局 生駒市	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。
5. 閉 会	

以 上